新しい地域コミュニティ組織

おおはら

VOL. 16
2015.10

■発行日■
平成 27 年 10 月
■発　行■
大原自治振興会
甲賀市甲賀町相模 173-4
TEL&FAX.88-3111

戦争を振りかえっての体験記

**今年は戦後70年にあたり、終戦記念日に
戦争体験者中井さんにお話を伺いました。**

体験者　中井 寿夫さん
(95 歳・大原市場在住)

戦争が始まり勤務していた貿易商も資金凍結となり、兵隊の道へ。昭和14年18歳で海軍に志願し採用された。希望の整備兵ではなく水兵でした。同年４月に呉海兵団に入隊し10ケ月の厳しい訓練を受けた後、連合艦隊第四艦隊巡洋艦「鈴谷」に乗艦する。最新の兵器で20センチ砲でした。厳しい勤務で上官の訓練と制裁があり、怠けていると航海中事故が起こる為、毎日緊張の連続で６か月の勤務を終える。その後に、横須賀の砲術学校普通課に入学、ここでも厳しい訓練と学科の猛勉強でした。

卒業後は舞鶴の第二砲艦隊に勤務、舞鶴では艦隊が無いので偽装商船の「萬洋丸」に勤務、ここから南支那海へ封鎖作戦のためフイリピンのリンガイ湾上陸作戦に参加をする。ボルネオ石油基地等の要所警備に当たる。17年12月に「萬洋丸」を退艦し海軍砲術学校高等科に入学する。学校は横須賀の基地にあり、戦争が激化する中では優秀な人材が必要であった。最新の砲術を10か月学ぶ。18年12月駆逐艦「岸波」に乗艦し9日には横須賀を出港し、瀬戸内海にて訓練をするが、ここでは最も危険な部所である一番砲の担当であった。

19年2月に出撃の準備の後、船団護衛の為にサイパンに向う途中、少年戦車兵が乗った商船が敵国の潜水艦に攻撃され沈没する。300 名余りの救助活動をするも悲惨であった。6月「岸波」に出動命令、航空母艦の護衛任務であった。「マリアナ沖海戦」は見るに耐えない戦況となった。

さらに、十月レイテ沖海戦では敵国の大船団と 17 万人の大軍が進行してきた。この海戦で我が方は航空艦隊の運命を賭けた戦闘となり、奮闘するも戦艦「武蔵」は沈没し又、多数の艦の被害がでる。「岸波」も攻撃を受けこの時に炸裂した断片が僕の左肩を突き抜けて１番砲手の腹部を直撃し即死状態だった。鶴ケ丘八幡で祈祷して頂いた白の鉢巻きで止血して指揮を執り続けました。夜に医務室で軍医長は「切らなあかん　ええか、ええか」。覚悟を決めそこで簡単な手術をしてくれた。その日の夜半負傷者３名と共に「岸波」を退艦し、その後病院船に移り簡単な手術を受けマニラに入港、11月に病院船で帰国、翌20年１月東京へ。ここでは東京大空襲の焼け野原の地獄を見る。

リハビリ訓練を終えて５月に舞鶴海軍病院に転院する。7月3日に一時帰郷の許可、懐かしの我が家に白衣の姿で帰る。そして9月中頃復員通知が来た。敗戦を知り、これからの不安の中皆が大変なんだ、負けていられない、一生懸命に尽くせば不安はない、片手でも人様よりも頭を使い、より一層働けば良いので不安は無いと心に決めた。

昭和20年7月4日から大原村役場に勤務する。その甲賀町議会議員を勤める。

戦争の反省が必要
戦争はこんなに皆が何かにつけ犠牲になっている
戦争のない世の中を皆で考えよう

★お詫び
第 15 号掲載の役員名簿において、顧問・田中勇氏の記載もれが有りました。お詫び申し上げます。

編集後記

今回、発行が２回目となり、今号記載にあたり各自治会の区長様をはじめ、各区民の皆様のご協力に感謝申し上げます。これからも、より良い内容にしたく思っておりますので、皆さまの一層のご支援を頂けますよう、お願いいたします。

広報委員　　松本　勝・林　幸世・廣岡いずみ

かむらのコスモス畑

大原自治振興会・自治区の相互理解を図る説明会が開催される

拝坂区で、6月21日午後８時より草の根ハウスに於いて、区長さんを始め役員の方約30名が参加されました。自治振興会からの説明と意見交換の交流がなされました。

大原中区で、８月7日午後７時半より大原中公民館に於いて、区役員さんを始め区民の皆さんと、大原自治振興会の関係者合わせて約 30 名の参加のもと、相互理解を深めるため説明会が実施されました。大原中区長による挨拶の後、中島自治振興会会長より、平成27年度大原自治振興会事業と、大原学区にも課題となる人口減問題、今年度より立ち上がったプロジェクトについての説明がありました。

区長からは、これからの区や大原学区との横のつながりの重要性についての提言と、大原自治振興会から区への情報量がまだまだ少ない点の指摘がありました。

実際に集まって話し合う事の重要性を確認し合えた説明会となりました。

プロジェクトチーム発足

チーム員12名、本 部５名で８月25日火曜日に第１回プロジェクト会議があり、今後の方針、計画に向け3つのプロジェクトチームが熱くスタートしました。今後の活動が期待されます。

各プロジェクトチームのリーダーは、見守りプロジェクト雲哲雄、まちづくりプロジェクト大原久和、若者プロジェクト畑中一基と決まりました。